

# 成分ラッキョウ 医療に活用へ

## 福井大の研究農水省事業に

本県特産のラッキョウから抽出した成分を医療の細胞培養に活用する、福井大の寺田聡准教授（以下）による研究が、農林水産省の「新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業」に採択された。細胞培養は、再生医療にも深くかかわる技術で、県産農産物を活用した安全で安価なバイオ医薬品の製造技術誕生につながるものと期待される。寺田准教授らは二〇一二年の実用化を目指している。

（北原愛）



寺田聡准教授は福井市の福井大文京キャンパスで

肝炎や糖尿病などの製造過程で主に牛の血漿を用いられている。狂牛病などの人畜共通の感染症の影響を不安

視する声もあるため、寺田准教授は、植物成分を使った培養技術の研究に着手し、血糖値の低下や中性脂肪を減らす効果で知られる「ラッキョウフルクタン」に目を付けた。

〇六年からの県食品加工研究所との研究で、フルクタンが細胞の増殖や冷凍保存時の生存率のアップなど、牛血清と同様の作用があることを確認した。現在は酵素処理でフルクタンを抽出し、加工研究所のほか、衣

料品や健康食品の製造、販売などのエール。

ローズ（福井市）、鈴木工専（三重県）の協力を得ている。寺田准教授は大阪府出身。東京大大学院工学研究科博士課程を修了、一九九八年から福

井大勤務。農水省の同事業に本年度は、全国から三百四十五件の応募があり、寺田准教授らの研

究を含めて百一件が採択された。寺田准教授らの研究は、年間計七千万円が助成される。